

(8) 防災都市づくりの将来像

本町で発生し得る災害には、様々なものが想定されますが、特に重要な観点として本町には木津川をはじめ複数の河川が流れており、想定される最大規模での洪水が発生した場合には、町内の市街化区域の4割以上という広範囲で浸水被害を受ける恐れがあることが挙げられます。

その一方で、本町では、河川による恩恵を享受しながら、水とともに暮らし、発展してきたという歴史的経過もあります。

想定される自然災害等を全て未然に防ぐことは困難ですが、ハード・ソフト両面での対策による防災・減災を講じることで、災害リスクを可能な限り最小限に抑えることが重要です。

また、全体構想の都市づくりのめざすべき将来像では、「まちの魅力を未来に紡ぐ 選ばれる学研都市 精華町」を掲げ、基本方針の柱の1つとして、「激甚化・頻発化する自然災害から人命を守るためのソフト・ハード両面での対策による都市防災に強い都市基盤に支えられた“強くしなやかな都市”をつくる」としています。

上記の内容を踏まえた安全・安心な都市を創造するため、住民や民間事業者と行政が相互に連携し、自助・共助・公助の考えに基づく防災力の醸成を図り、防災・減災を促進させるための防災都市づくりを目指します。